

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290101437		
法人名	社会福祉法人 致遠会		
事業所名	グループホームサンハイツ女の都		
所在地	長崎市女の都3丁目1番6号		
自己評価作成日	令和 6年 11月 8日	評価結果市町村受理日	令和7年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 6年 12月 12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づき、ご入居者様に安全安心、そして、健康で、笑顔がたくさんあふれる生活の日々を提供できるように、職員が健全で、笑顔でご入居者様に接することができるように努めています。最近では、食後の茶碗洗いや、洗濯物干し、たたみ、お茶パック詰め等できる事を自ら進んでご入居者様が行うことが出来ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者はこれまで懸案だった運営推進会議の開催に向け、地域の人に参加を呼び掛け続け、多方面の協力を得て実施に漕ぎつけ、会議運営を軌道に乗せており、地域との協力関係作りに努めている。また、職員が理念に沿った視点に立ち支援するよう指導している。職員は介護計画を基に個別の援助計画を作成し、本人のできることを支援し役割を持ってもらい、張りのある生活を手助けしている。毎月送るホーム便りは本人の写真付きで暮らしぶりや健康状態等、家族が知りたい情報を掲載し、安心に繋がっている。自費負担も考慮したパッド類の使用枚数の検討や早めの声掛け等、排泄支援からも本人・家族に寄り添う優しさがみえる。今年、安全面を考慮し1階床面を張り替えており、ホーム内に明るく温かみのある雰囲気が増している。管理者と職員がチームワークよく、理念“人権を尊重し”、“ゆたかに、安らかに、自分らしい生活”の具現化に努めているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしく」という意味では、意識して取り組むことが出来ていると感じるが、日々の業務に追われ、理念の実践という点では不十分である。	4つの理念と法人フィロソフィに沿い、日々の支援に取り組んでいる。職員は業務優先にならないためにはどうすればよいか、入居者との関わり方を話し合っている。入居者各々の持つ力を活かし、張りのある生活が送れるよう支援している。理念にある、“人権を尊重し”、“ゆたかに、安らかに、自分らしい生活”の具現化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所自体が地域の一員であるという認識が薄い。運営推進会議開催に漕ぎつけたことは、今後の交流に期待ができるのではないかと考える。	自治会に加入しており、回覧板を入居者と一緒に届けている。地域の祭りに協賛し、招待を受けている他、管理者の声掛けにより、運営推進会議の地域代表3名が決まり、会議開催に繋がっている。入居者は、月2回の訪問リハビリボランティアや地域住民のハーモニカ演奏等、交流の機会を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践できていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度やっと開催出来たところ。	昨年度、会議は未開催であったものの、多方面からの協力を得て12月現在、4回実施している。会議ではホーム内の活動や職員の研修、面会条件等の報告があり、参加メンバーによる意見交換が行われている。夜勤の状況や面会条件の緩和等、質問に対し明確に回答していることが議事録から確認できる。	運営推進会議実施が軌道に乗ったところである。引き続き、省令にある年6回以上の会議開催に向けた取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時には報告、連絡、相談を行っている。	管理者は運営上の不明な点を問い合わせる他、相談に乗ってもらう等、電話で話したり担当窓口に向いている。担当課職員の訪問はないものの、年1回更新通知がある他、敬老の日に100歳の祝いが届いている。職員は行政から案内のある研修を受講している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	実践している	指針を整備し、基本的に毎月全職員で身体拘束廃止委員会を開催し、理解を深めている。管理者はスピーチロックについて丁寧に指導しており、気になる言葉掛けは、都度注意しており、職員同士でも注意しあっている。一人で外に出ようとする入居者には、職員と一緒に戸外を歩き、気持ちを落ち着かせている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	実践している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実践している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実践している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望については、真摯に対応させていただいている また、ご要望がないか聴き取りも行っている	苦情相談窓口や処理手順を明文化し、説明している。家族の要望や意見は面会時や電話で聞き取り、入居者の要望は日々の会話の中で把握している。入居者一人ひとりの写真を添えた毎月のホーム便りは、面会方法や日頃の様子を伝え、知りたいことが分かると好評であり、家族との信頼関係を強めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案は、否定することなく一緒に考え対応できるようにしている	職員は、毎月のユニット会議で意見を出している。また、管理者と職員のコミュニケーションは良く、日常業務の中でも頻繁に要望や提案を伝えている。管理者は職員の要望や提案を検討し、可能な限り反映し、様子が気になる職員には個別に話を聞いている。電動ギャジベッドの購入や図書コーナー設置など意見の実現例は多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	整備等に努めておられると思います		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤めておられると思います		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組んでおられるとおもいます		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実践している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実践している 十分な聴き取りとは言えないが、担当職員や計画作成担当者を中心に聴き取りを行っています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実践している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	実践している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	実践している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	実践している	職員は利用開始時の聞き取りや家族の話から生活歴を把握している。法人の方針で現在も面会の制限はあるものの、家族や親戚、友人、自宅近辺の住民などが訪れている。馴染みの場所への外出支援は家族に依頼している。在宅時の生活習慣の新聞や読書、家事、また、裁縫や土いじりなど趣味の継続支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	左記の通り実践できている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所からは、業務の煩雑さに押され、フォローや相談支援まではできていない。電話など受けた時などは対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話の中から意向を引き出すことができるように取り組んでいる	職員は毎日、入居者と会話の時間をもち、思いや意向を聞き取っている。難聴者には耳元で話し、コミュニケーションが困難な時は表情や仕草の他、家族へ聞くなどして推測している。聞き取った意向や新しい情報は口頭で伝え、業務日誌やケース記録へ記載し共有しており、介護計画へ繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話で、キーワードを投げかけ、拾い上げができるように工夫している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実践している 申し送りなどで、変化があれば情報共有するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要時にご家族へ電話をし確認することに留まっている。職員間では意見交換など行っている	暫定プランを立て、2週間ほどで本プランに移行している。見直し時は、本人の思い、電話や面会時に聞き取った家族の意向、医師の意見を取り入れ、ケアマネジャーが作成している。職員は介護計画を基に個別の援助計画を作成し現状に沿った支援を行っている。ただし、介護ソフトを活用した計画と実施記録の連動に試行錯誤している。	計画と実施記録の連動に向けて、介護ソフトを活用した更なる工夫に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多様化できるように、私たち自身も柔軟性を 持てるようにしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今のところ地域とかかわることができていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	実践している	利用開始時に協力医は月2回の往診が可能であることを説明し、本人・家族に確認している。入居前のかかりつけ医を継続でき、家族が通院同行しており、都度受診結果を共有している。他科受診等に介護タクシーを利用することもある。週1回法人の訪問看護師が健康状態を確認しており、夜間急変時の対応も職員は理解している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	実践している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	実践している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	実践している	入居時に重度化した場合の対応にかかる指針を家族に説明し、同意を得ている。重度化した際は、主治医が家族に説明しており、本人の状態の変化に応じて、主治医を交え、家族と話し合い方針を確認している。昨年、看取り支援を行っており、看取り後は支援内容を思い返している。1月にターミナルケアの研修を予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行えるよう努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	地域との共同体制はできていない	今年2月、消防署立会いでの通報、消火訓練を実施している。毎月の自主訓練では、業者との装置確認の他、コンセント点検、消火器の位置把握、日中夜間の通報、避難、消火の手順確認、地震発生時の対応等を行っている。ただし、確認のみに留まっており、実際の避難訓練には至っていない。	入居者の命を守るため、全職員に災害時の動きが身に付くよう、日中夜間の火災想定や自然災害時の避難等、訓練の実施が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	取組んでいる	個人情報の取り扱いは写真掲載を含め、同意の署名を得ている。排泄や入浴介助時には、羞恥心に配慮し、居室へ入るときはノックするなど人格の尊重やプライバシー保護を心掛けている。ただし、入居者への呼びかけは苗字にさん付けを基本としているものの、呼びかけを含め人格を尊重した支援について、職員により差がある。	本人が喜ぶ、家族が了解しているという理由で呼び方を変えるのではなく、人格の尊重や尊厳について、職員間で話し合い、理解を深め、支援に繋げることが待たれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	実践している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	実践している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	取組んでいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一連の流れをともに行うことはできていないが、食後の役割分担はできている	献立や調理は配食業者を導入し、主食はホームで焼き、アレルギーや嗜好に対応し、嚥下状態に合わせた形状で提供している。デザート類は食後に出すなど気配りがある。フルーツパフェや誕生日ケーキのトッピングなど入居者も一緒に取り組んでいる。1品追加や正月のノンアルコール清酒、弁当を取るなど楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	実践している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実践している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	実践している	職員は排泄チェック表を基に声掛けや誘導を行っている。また、入居者の排泄状況に沿った介助やパッド類を日常的に検討し、使用枚数やシーツ汚染が減少し、本人・家族に喜ばれている。夜間のポータブルトイレの使用は無く、全日トイレでの座位排泄を基本とし、排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	実践している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	左記の通りにはできていない	入浴は週2回を基本としており、体調不良や気分が乗らないときは無理強いせず、時間や日を変え週2回の入浴を確保している。リフト浴で車椅子の入居者も浴槽へ浸っている。好みのシャンプー類の持ち込みに対応し、入浴剤の使用もあり、入浴を楽しむ支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	実践している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	実践している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	実践している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援はできていない	職員不足のため、現在、積極的な外出支援は行っていないものの、テラスでの日光浴や外気浴、近くの公園へ散歩に行っている。また、気分が落ち込んでいる入居者には、ドライブに誘い気分転換を図っている。家族の協力を得て、外食や1泊旅行へ出掛ける入居者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルの原因となるため、個人個人では持ち合わせがありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	投げかけは行っているが、支援までには至っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	実践している	今年、1階床面を張り替え、ホーム内に明るさが増している。リビングでは入居者がテーブルを囲み談笑したり、ソファで寛いだり、テラスに出て季節の花やプランター栽培を楽しむ様子が窺える。別棟では階段に昇降機を設置し、移動に負担がかからない工夫が見える。職員が空調管理しており、清掃は入居者も手伝っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間が狭く、場所の提供に苦慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	実践している	持ち込み品に制限はなく、ハンガーラックやボックスなど持ち込んでいる。本人の動線に合わせた配置であり、全ベッド眠りスキャンを設置して安全に過ごせる居室になっている。職員が清掃と空調管理を行い、安全で快適に過ごせるよう努めている。また、一緒に掃除する入居者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	実践している		